



UCIA ニュース

発行 宇治市国際交流協会

事務局 〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書広報課内
電話 0774-22-3141(内線2058) FAX 20-8776
Eメール hishokohoka@city.uji.kyoto.jp

第 93 号
令和5年(2023年)1月

宇治市防災訓練に出展



▲設置ブース

令和4年10月23日(日)、木幡中学校で開催された「宇治市防災訓練」(宇治市主催)に宇治市国際交流協会のブースを設置し活動のPRを行いました。

地域の皆さんに協会の取組を知っていただくため、ポスターを展示し、会場アナウンスを使ってPRを行うとともに、多言語版防災パンフレットの配布を行いました。英語とやさしい日本語の防災パンフレットは、用意した部数が全てなくなる盛況ぶり!

今回は、京都府国際センターにもポスター作成などでご支援いただき、当日もご参加いただきました。

また、UCIA 日本語教室から外国人の皆さんが参加し、避難所でのテント設営訓練や、119番通報などを体験。参加者は避難所体験が初めてで、その場で宇治市の職員に避難所についての不安や疑問を尋ねることで、災害に備えることができました。

その後、現在準備を進めている「外国人への災害時の支援」を検討するために、「外国人住民による防災座談会」を宇治市危機管理室にも参加していただき開催しました。

避難所での案内表示にやさしい日本語と図を使用すること、外国人向けの避難者受付簿と指差しボードの必要性、避難所マップの配布など、

様々な意見を伝えることができました。

防災訓練当日から座談会まで、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



▲避難所でのテント設営体験



▲119番体験



▲座談会の様子

昨年10月、宇治市との間に「災害時等における外国人支援に関する協定」を結び、災害などの緊急時に、外国人に対し市と協会が協働して情報提供や応急対策などの支援を行うこととし、今年4月、災害時の外国人支援のための組織を明確化するために、協会内に「宇治市災害多言語支援センター」の設立を行いました。

募集!

現在、宇治市国際交流協会では、災害時に行政と外国人住民の架け橋を担う「災害時外国人支援サポーター」を募集しています!

協会ホームページより
ご登録をお願いします



入門ベトナム語講座

昨年度に引き続き、今年度もベトナム語講座を開催しました。講師にグエン タインさんとゴック ジャップさんをお迎えしました。お二人から、講師を経験してみたの感想とメッセージをいただきました。



授業風景（前半 4 回）

6年前にベトナムから技能実習生として日本に働きに来ました。日本に住んでいるうちに日本人とか日本の文化も知りたくて日本語を頑張って勉強しています。その中でベトナム語講座に先生として参加したことが一番いい経験でした。先生というより友達として、皆さんとベトナム語と日本語を使って交流しました。私とトゥオンさんはベトナム語講座の前半を担当致しました。ベトナム語は自分達の母語ですが、二人とも先生という仕事の経験は全くなく、あまり自信がありませんでした。

皆さんは熱心に勉強して、よく質問をしてく

れたので、私たちは驚きました。毎週水曜日に皆さんに会って少しずつベトナム語を教えて、私達も皆さんから日本語を教えてもらい、前半の4回を終わりました。とても素晴らしい経験でした。皆さん、ベトナム語の学習を頑張って続けてください。またチャンスあれば一緒に勉強したいと思います。

ベトナム語講師 グエン タイン

私は後半の4回ベトナム語を教えていた担当者のゴックです。まず、子供の頃からの長年の夢として教師になる機会を与えて頂いた宇治市国際交流協会に感謝いたします。それから、私の仕事をサポートしてくれた素晴らしい山岡翔さんに感謝します。私は多くのことを学びました。発音が非常に難しいベトナム語を学ぶみなさんには貴重な時間を頂き、ありがとうございました。教えるだけでなく、私はノンストップの学習の精神のみなさんから多くのことを学びました。そのため、毎回みなさんと楽しく有意義な授業を過ごしました。毎週水曜日にみんなに出会い、勉強し、交流できることを楽しみにしていました。授業は終わりましたが、この経験を大切にしています。私が教えたことがみなさんの役に立ち、ベトナムの人々と交流するとき、友好的な環境を作りますように。また近い将来、みなさんと一緒に学習できる日を楽しみにしています。

ベトナム語講師 ゴック ジャップ



授業風景（後半 4 回）



アシスタントの山岡さん(左)とゴックさん

初歩の初歩のスペイン語講座、今年も元気に開催 (2022年末)

スペイン語講座アシスタント 田中 啓司

今年の受講生は中学生から中年生まで 8 名 + 1。例年に違わず皆さん意欲的で、世界遺産マチュ・ピチュには是非行きたい、サッカー有名選手に声かけたい、などスペイン語を覚えて使いたい話題で盛り上がります。受講生ママについてくる保育園児のルータ君（目的をもって進む道を表すスペイン語 Ruta。語の響きが好きで付けた名前だそうです）は + 1 の人気者になりました。

講師陣は昨年からバイリンガル外大生のクレイディさんが加わりネイティブはルイスさんと二人、田中の脱線文法解説を組み込んで会話練習も進みます。受付事務や室内の二酸化炭素の測定はアイラさんが引き受けてくれました。

市民講座は 8 回完結なのでテキストは初歩の初歩ですが、想いは空高く国や民族の境界など見えない所から、人類が創り作り続けている“ことば”に触れたいというもの。それぞれの社会の歴史の中で、その習慣や考え方を反映している文化、言語。日本語とは違う言葉に触れて、同を共有し異には新鮮に驚き、それらを共有して友人になる。地元宇治の小さな講座が、国境のない友人付き合いのきっかけを手伝えるように、と今回も受講生・講師陣いっしょに楽しみました。



宇治市日中友好協会 50 周年を迎えて



このたび宇治市日本中国友好協会では、創立 50 周年を迎えることとなりました。これまでお支えいただきました多くの皆様には厚く感謝を述べる次第です。そしてそれに伴い本年 11 月 12 日にはパルティール京都におきまして創立 50 周年記念式典を開催させていただいたところ、宇治市国際交流協会山本会長をはじめ、宇治市長、中国総領事など多くの皆様にご臨席を賜り、重ねて御礼を申し上げます。また、創立 50 周年記念誌も発行させて

いただき、式典にご参加された皆様にお配りさせていただいたところです。当協会のこれまでの歩みの一端を紹介させていただきますと、1972 年の中国との国交正常化より機運が高まり、1973 年 10 月に宇治市日本中国友好協会の設立となりました。この間の中国との交流においては、双方の多くの訪問団が日本・中国を互いに訪問し、交流を深めてまいったところです。そしてまた 1986 年の宇治市と咸陽市との友好都市盟約を締結されたことを機に咸陽市の小中学校へ数年にわたり多くの本を寄贈する活動や黄土高原の植林事業などを行ってまいりました。私たちの活動は地道で小さなものですが、引き続き中国との友好関係が末永く続くことを願うところであり、今後も私たちの活動にご支援、ご協力いただければ幸いです。

UCIA による「日本語支援ボランティア養成講座」

宇治市国際交流協会 副会長 小永井 宏子

宇治市国際交流協会（UCIA）は、日本語教師になるための講座を毎年開いています。

この講座で学んだ方々が、今ではボランティアの先生として教室を支えています。今年も10月～12月の3か月にわたって、第9回目の「日本語支援ボランティア養成講座」を開催いたしました。これは10回シリーズでの講座で、日本語の教え方を学んでいただき、ゆくゆくは日本語教室のスタッフになっていただければという目的で開催しています。

今年の講座では初めて、先生として実際に外国人に教える体験をしていただきました。

運営側としては、教えるという体験を通じてより一層活動に興味を持っていただき、授業のプランを立てることを身につけてほしいという思いでした。最初は講座を受けるのと、自分が教えるのとでは大きく違うため、戸惑いもあるようでしたが、話や挨拶などで楽しみながらスタートし、工夫された様子が見えられました。

新型コロナウイルス感染症が流行してからは、対面授業が敬遠されて日本語教室の活動が縮小されてきました。しかし今は、コロナの恐怖はあるものの、日本語を勉強したいという人が増えてきました。

ボランティアで運営されている日本語教室は、宇治市内に4カ所あります。宇治市も外国人居住者が3千人近くになり、学習希望者が増えているため、どの教室もスタッフ不足でギリギリの活動を強いられているのが現状です。今後につないで行きたい事業です。今後ともご支援ご鞭撻お願い申し上げます。受講者の新しい日本語の世界への参加を期待しています。



日本語支援ボランティアにご興味のある方は当協会事務局までご連絡ください。
E-mail : hishokohoka@city.uji.kyoto.jp 電話 : 0774-22-3141 (内線 2058)

カナダ・トロント：私にとっての海外活動の原点

雑観雑感

宇治ロータリークラブ永谷さんの後任として、今回、本協会に運営部会委員として加えて頂きました。国際交流も新型コロナウイルス感染症「コロナ」で活動は世界的に停滞しておりますが、少なからず近いうちに再開されるでしょう。

さて、私の個人的なことになりますが、海外とのかかわりは、1975年からカナダ・トロント大学へ2年間留学したことに始まります。留学することにより、世界が広がり、神戸大学に在職中は勿論のこと、1992年に宇治市で開業しましても、海外の学会、研究交流が続きました。そのためほとんどの主要な国々を訪れました。振り返ってみますと、私の海外交流の原点はインスリン発見の地カナダ・トロントにあります。一足先に私は冬の寒い日にトロントにまいりました。少し遅れて家内が幼い息子の手を引き、娘をおんぶしてタラップを降りてきた姿を今でもよく覚えています。寒空で震えていた私共を温かく迎えて下さったのがトロントの人達です。私は大学の研究で忙しくいましたが、家内や子供たちは英語会話や編み物、料理などを教えて下さる方々と一緒にさせていただき、夏には別荘での海水浴や、冬にはクリスマスパーティーに招いて頂き、カナダの生活に早くなじむ事が出来ました。留学からの帰国後も手紙のやり取りは勿論のこと、来日されたり、私達の方から学会などの途中に立ち寄っては旧交を温めて参りました。しかし、45年以上経ちますと、今や、遠い昔話になってしまいました。お世話になった方々、交友を深めてきた多くの人達が今や亡き人となってしまいました。

今日の複雑な世界情勢を眺めてみますと国際交流は世界平和にとって重要な位置づけとされていますが、安易な交流は禍根を残すことにもなりかねず、慎重な取り組みが求められているのではないのでしょうか。地道に一步一步進めたいものです。

土井 邦紘